

<b>徳島子どもと教育</b>	<b>徳島県教職員の会</b>
	〒771-0017徳島市川内町鶴島115
	黄金ビル 徳島労連事務所内
	TEL 088-665-6644
	FAX 088-665-2117
	携帯 090-2891-5189
eメール <a href="mailto:dp12287892@pf.lolipop.jp">dp12287892@pf.lolipop.jp</a>	
	2017年8月4日 No.219

佐那河内村内小・中学校運動会での国会議員挨拶問題で

## 教職員の会が村長に要請書

教職員の会は、5月21日に実施された佐那河内小・中学校運動会において、運動会のプログラム途中に訪れた県選出国会議員が挨拶した問題で、6月27日、佐那河内村長に要請書（裏面参照）を送付しました。

この問題は、村長が教育長に対し、国会議員が「来たら対応してほしい」と伝え、教育長が「競技の間に挨拶をしてもらうよう」校長に指示し、それを受けて学校側が国会議員に挨拶を促したものです。

新聞報道などによると教育長は、村議らの「軽率だ」などという批判を受け、「参加者に違和感を与えたのは事実。おわびします」と「村議会全員協議会」で謝罪しました。しかし、村長は、「選挙期間中でなく、競技の幕あいにしているから問題ない」との立場を明らかにしていました。

教職員の会の要請書は、村長の行為を次の2点で批判しています。

- ①地位を利用して教育現場に不当な働きかけを行い、国会議員に挨拶の場を提供したこと
- ②「教育の中立性」を侵害し、学校行事の場で思想信条の自由・政党や候補者支持の自由等を侵害したこと

その上で、下記のことを要請しました。

地位を利用して教育現場に不当な働きかけを行い、国会議員に挨拶の場を提供したことの誤りを認め、今後、同様なことを繰り返さないこと。

なお、上記の教職員の会の「要請」について、徳島新聞が6月28日の朝刊で報道しました。（裏面参照）

## 道徳教科書で「声明」を発表

教職員の会は、来年度から使用される小学校の道徳教科書採択を目前にした7月に、「来年度から使用する小学校道徳教科書の採択と教育出版の小学校道徳教科書問題について」（声明）を発表しました。

教職員の会には、道徳教科書の展示会に参加した人から、教育出版の教科書が他の出版社と比べて「異常な内容ではないのか」、「戦前の修身につながる教科書ではないのか」などといった疑問の声が寄せられていました。

今回の「声明」は、こうした声に応え、県民のみなさんに道徳教科書の内容とその採択に注目していただき、子ども達がどのような教科書で学習すればよいのかを考えていただく参考になればとの思いで発表したものです。

### 異常さが目立つ教育出版の道徳教科書

教育出版の教科書には、下記のような問題点があります。なお、詳細は同封の「声明」をご参照ください。

①掲載する必要のない安倍首相や東大阪市の野田市長の写真を載せています。これは、「義務教育諸学校教科用図書検定基準」にある「特定の個人、団体などについて、その活動に対する政治的又は宗教的な援助や助長となる恐れ」のあるもので、**教育の政治的中立を侵す重大な問題**です。

②道徳のお手本とするべきとして紹介する人物に**大企業の経営者を多く掲載**しています。これは、検定基準の「特定の営利企業、商品などの宣伝や非難になる恐れ」のあるものです。また、戦前・戦中の「修身」教科書に登場する人物も多数登場しています。

③「どれが正しいおじぎのしかたか」など、戦前の修身と同じようなおじぎをさせる「しつけ」「礼儀」の教材が多く取り入れられています。

④「君が代」の歌詞について、「いつまでも日本の国がへいわでさかえますように、というねがいがこめられています」と虚偽の説明をし、君が代斉唱時の起立・礼の行動まで写真入りで指示しています。また、オリンピック・パラリンピックで使われる旗や歌は選手団の旗・歌（オリンピック憲章）であるのに、これを意図的に混同して「国旗・国歌」と記述しています。

2017年6月27日

佐那河内村 村長 岩城福治 様

徳島県教職員の会 代表世話人 喜多啓二

〒771-0117

徳島市川内町鶴島115 黄金ビル 徳島労連事務所内

Tel 088-665-6644

## 運動会での国会議員挨拶に関わる要請書

佐那河内村発展に向けての貴職の日頃のご尽力に敬意を表します。

私たちは、子どもと教育・くらしを守ることなどをめざす徳島県内の教職員（含む・退職者）によって組織している団体です。

さて、6月8・16日付の徳島新聞が、5月21日に実施された佐那河内小・中学校運動会での国会議員挨拶問題を報じていました。

報道によりますと、運動会のプログラム途中で訪れた県選出国会議員が挨拶したとのことです。国会議員の挨拶がなされたのは、村長が教育長に対し、国会議員が「来たら対応してほしい」と伝え、教育長が「競技の間に挨拶をしてもらおう」校長に指示し、それを受けて学校側が国会議員に挨拶を促したからだということです。

私たちは、上記のような新聞報道が事実であるならば、下記の問題点があると考えます。

### ① 地位を利用して教育現場に不当な働きかけを行い、 国会議員に挨拶の場を提供したこと

議員が出生地でも居住地でもない市町村の運動会や祭の会場等を訪れるのは、来るべき選挙に備えたり支援者の声を聞いたりするためだ、ということは周知の事実です。そして、訪れる議員にも、訪問を受ける市町村長・教育長・校長などにも問題はありません。

それでは、今回の問題点はどこにあるのでしょうか。

貴職は、国会議員の挨拶は「選挙期間中でなく、競技の幕あいにしているから問題ない」と述べておられます。「選挙違反ではない」との主張かと思われますが、この言葉は、来るべき選挙のために挨拶の場を提供したことを間接的に認めるものではないのでしょうか。

問題は、この選挙を意識した挨拶が学校側の必要性からではなく、貴職や教育長による権力的押しつけによってなされたことです。運動会プログラム途中の挨拶が、予定候補者を選挙民に知ってもらい、予定候補者の支持を増やすという意図でおこなわれたのではないかということです。これは、運動会の主人公である子どもたちや保護者・教職員不在であり、あってはならないことです。

教育長は、「参加者に違和感を与えたのは事実。おわびします」と村議会全員

協議会で陳謝しています。賢明な対応であったと考えます。しかし、貴職からは、何の謝罪の言葉もなく、今後、再び同様な問題が生じる危険性さえあるのではないのでしょうか。

### ② 「教育の中立性」を侵害し、学校行事の場で思想信条の自由・政党や候補者支持の自由等を侵害したこと

貴職が特定の思想を持ち、特定の候補者を応援することは自由です。問題なのは、貴職の「①」の行為が「小・中学校運動会」という公教育の行事に関わってなされたことです。

「公教育」の場を、特定の政党や特定の予定候補者の宣伝の場にするのは、「教育の中立性」を侵害するものであり、憲法にも教育基本法にも違反します。たとえ挨拶に「政治的な話はなかった」としても、予定候補者の支持を広げるための宣伝になったことは間違いありません。運動会に参加していた子ども・保護者・村民には、当然のことながら思想信条の自由があり、有権者にはいかなる政党を支持し、どの候補者に投票するかの自由があります。また、それを侵害されない自由もあります。そして、こうしたことは、とりわけ公の教育行事などの場では尊重されなくてはなりません。

国会議員は、プログラム途中での挨拶を「いったん断った」とのことです。それは、通常あり得ない「挨拶」であったことを物語るものです。貴職には、あってはならないような場を設定するよう教育長・校長に指示していた責任があると考えます。今回の挨拶問題は、教育と民主主義の根本に関わることだといえます。

以上のことから、以下のことを要請します。

地位を利用して教育現場に不当な働きかけを行い、国会議員に挨拶の場を提供したことの誤りを認め、今後、同様なことを繰り返さないこと。

以上

